

第2回森為三博士研究奨励金贈呈に関する報告

会 長 紅 谷 進 二

昨年第1回贈呈者に関する報告の際、森先生未亡人しげ子女史から、基金のうちへ金5万円を追加寄付したいとの申し出があり、ありがたく頂戴したことを報告しました。そのため今回から金15万円を基金として森先生の御遺志による研究奨励金の事業を実施することになったのであります。

第1回は1人に付5,000円で1名に贈呈しましたが、本年は前記のとおり基金が増加しましたので1人に付5,000円とし2名の方に贈呈することになり各方面から推選のあった方に付選考審議会を開き審議の結果

本会 稲田又男氏

同 猪股涼一氏

の2名を本年の研究奨励金贈呈者と決定し総会の席上、森先生未亡人から直接御贈呈をしていただきました。

両氏推選の言葉

1 稲田又男氏

稲田又男氏は加古川市出身、本会の前身兵庫県博物館時代からの同志で、昭和10年頃、有馬郡藍小学校（現神戸市兵庫区）に勤務の傍ら会員諸氏と共に植物採集をはじめ羊歯植物、ことにウラボシ科の植物を追って県下各地を探索し昭和13年会誌16号に本県産の30属143種を報告し、その後勤務上、台湾を経て中支に渡り勤務の間を利用して彼地の山野にシダ植物を漁り終戦の翌年（昭和21年）帰省された、その後も植物採集の宿志止し難く、日本シダの会関西談話会の重要メンバーとして京大田川博士等の指導のもと近畿の同好者と交通し兵庫県下シダ植物の探索を、更に進め幾多の新変種を発見し、また未知の産地をつきとめるなど県下の分布を明かにし、1958年4月兵庫県羊歯植物誌（日本シダの会関西談話会発行）を公にし70属194種の報告をしている。

同書には、シダ植物目録、シダ植物の生態、本県における、分布、採集と観察、採集地案内等の記事を載せはじめてシダ植物の研究に着手される方の能い参考資料である。なお、同氏はこの度勤務先であった日本通運株式

会社の職を辞し居を郷里加古川市から神崎郡大河内町川上に移し、ここに稲田植物研究所を開所経営し自らの植物研究三昧に楽しまれると共に若い研究者にも便宜を与えたいとの好意をもっておられる。老後の生活設計として実に適所を得られた企てで氏の決断を欣ぶとともに、ますます健康に注意され研究への精進を続けられるよう祈ってやみません。

2 猪股涼一氏

猪股氏は秋田県本荘市出身、鳥取二中から鳥取農専農芸化学卒業の後、一旦郷里に帰られ秋田県経済部に勤め後同県立本荘高校教諭を経て昭和27年本県立西脇高校に来任、本年4月御影高校に転任、現在同校勤務、西脇高校在任中兵庫農大に籍をおき同学奥谷博士の指導を受けられた。卒論に続き最近までの業績の一例を奥谷助教授からお報らせくださったので、その要約を次に転記させていただきます。

猪股氏は「バラ類を加害するハバチ類」を研究テーマとし、その分類、生態等の詳細な研究を続けた。その進行中の成果のうち特筆に値するものはハバチ類の食草に関するものであります。元来ハバチ類は、その食草に産卵するのが普通とされていたが、バラ類を加害するセマダラハバチ、クロハバチ等は食草に産卵せず付近の他植物に産卵することを明かにしました。このことは世界的にも大発見であると思われる。小生（奥谷氏）もその一例を知っていましたが、猪股氏はより広くいろいろな種類にも見られることを発見されたわけです。同時にクロハバチが普通種でありながら長い間その食草が判然せず、ただ古い記録からトネリコであろうと推定されていたのですが、同氏の研究により全く別のバラであることが判りました。このほか多くの食草を発見し昆虫学上非常に重要な貢献をしています」とあります。本年4月県立御影高校に転任されましたが引き続き研究に励んでおられます。将来なお研究に精進され花卉栽培に貢献されることを期待して奨励金贈呈決定の報告とします。